

【一般向け】

首都圏外郭放水路・建設技術展示館 施設見学会を開催

技士会では、昨年12月8日(木)に、一般の方々を対象に、春日部市郊外にある「首都圏外郭放水路」と松戸市にある「建設技術展示館」の見学会を開催した。一般向けの見学会開催は、当技士会では初の試みであったが、大学生をはじめ約30名の方々に参加いただき、土木の施設や技術をより身近に感じてもらう良い機会となった。参加者からは「土木のスケールの大きさに驚いた」「最新の技術を学ぶ良い機会となった」などの感想をいただいた。

◆首都圏外郭放水路◆

首都圏外郭放水路は、中川・綾瀬河流域の洪水を地下放水路に溜め排水する施設である。中川・綾瀬河流域は、利根川、江戸川、荒川に囲まれ、地形の悪さもあり、これまで幾度となく洪水被害を受けてきた。今回見学した首都圏外郭放水路は、洪水を地下に取り込み、世界最大級の地底50mを貫く総延長6.3kmのトンネルをとおして江戸川に流す仕組みとなっている。当日は、施設の説明を受けた後、地下の巨大空間施設「調圧水槽」を見学した。参加者は、それぞれ施設のスケールの大きさを体感したり、繰り返し質問をするなど、熱心に見学をしていた。



◆建設技術展示館◆

建設技術展示館は、平成11年11月17日に開設された、建設技術に関する最新情報を発信する施設である。現場における問題・課題の解決のため、現場の技術者の新技術の活用促進と技術力の向上をメインテーマとした展示が行われている。また、サブテーマとして建設技術の幅広い理解と、次世代を担う若者に興味・関心をもってもらうこともその目的としている。当日は、施設概要の説明のあと、あいにくの雨により屋内の展示のみの見学となったが、それぞれに興味のあるブースにて、展示物を実際に見て、触り、技術の理解を深めていた。

